

芯を通す開発を目指して

— アジャイル"ファン"が

本気でアジャイル開発に取り組んだ2年間 —

ギルドワークス株式会社

前川博志 a.k.a @Posaune

今日話したいこと

- 開発者として、より良いプロダクトを作っていくための学びと気づきの共有
- 私の話聞いて、明日から開発者としてサービスに関わる姿勢に少しでも影響を与えられればと思っています

自己紹介

- 前川博志 a.k.a @Posaune (33)
- ギルドワークス株式会社所属のエンジニア (今年から3年目)
- Microsoft MVP for Visual Studio and Development

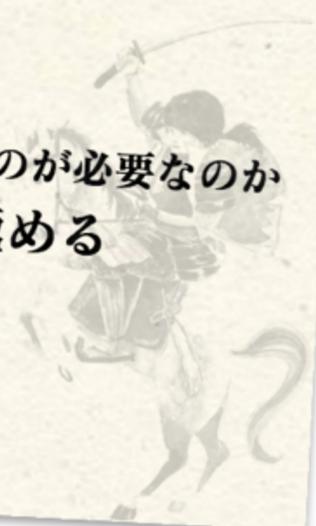
ギルドワークスについて



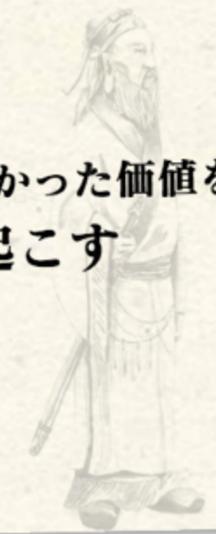
ギルドワークスのミッション

正しいものを正しくつくる

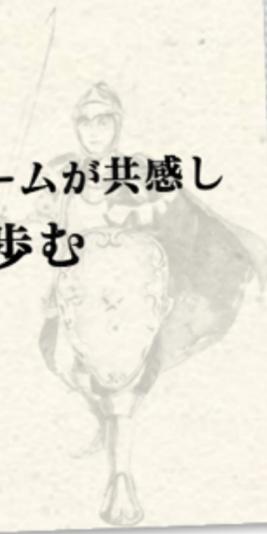
誰にどんなものが必要なのか
見極める



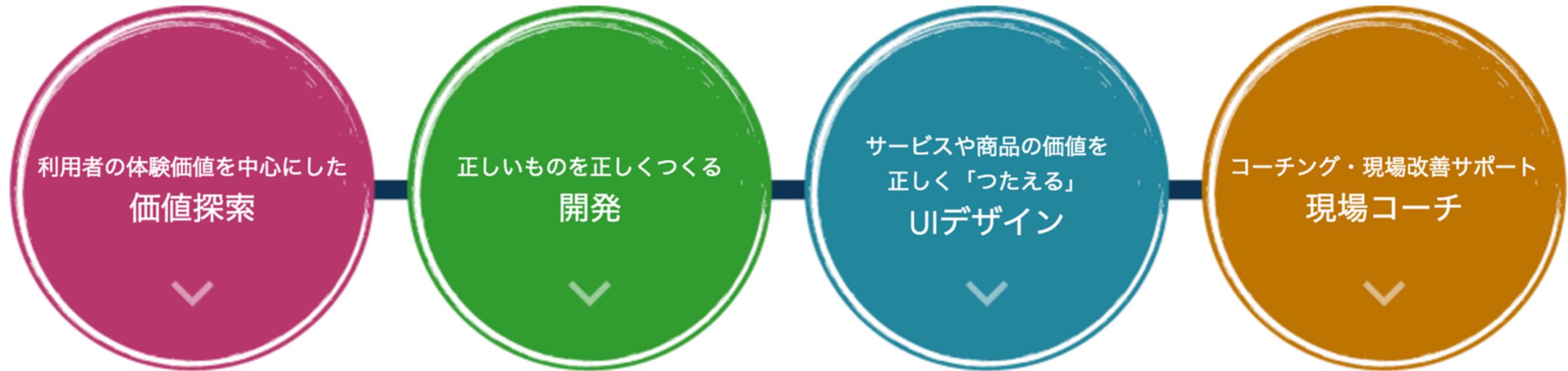
これまでになかった価値を
掘り起こす



お客様と開発チームが共感し
ともに歩む



ギルドワークスについて



アジャイル“ファン”からアジャイル開発者へ

- “ファン” = 「素振り」がどうしても多くなりがち
- 前職は大企業で、大幅に変えるのが難しく、小さなプラクティスを導入するのが精一杯
- そんな状況から、ギルドワークス中村さんに声をかけて頂き、
転職
- アジャイル開発者として、実践を積んでいくことに

ギルドワークスの開発スタイル

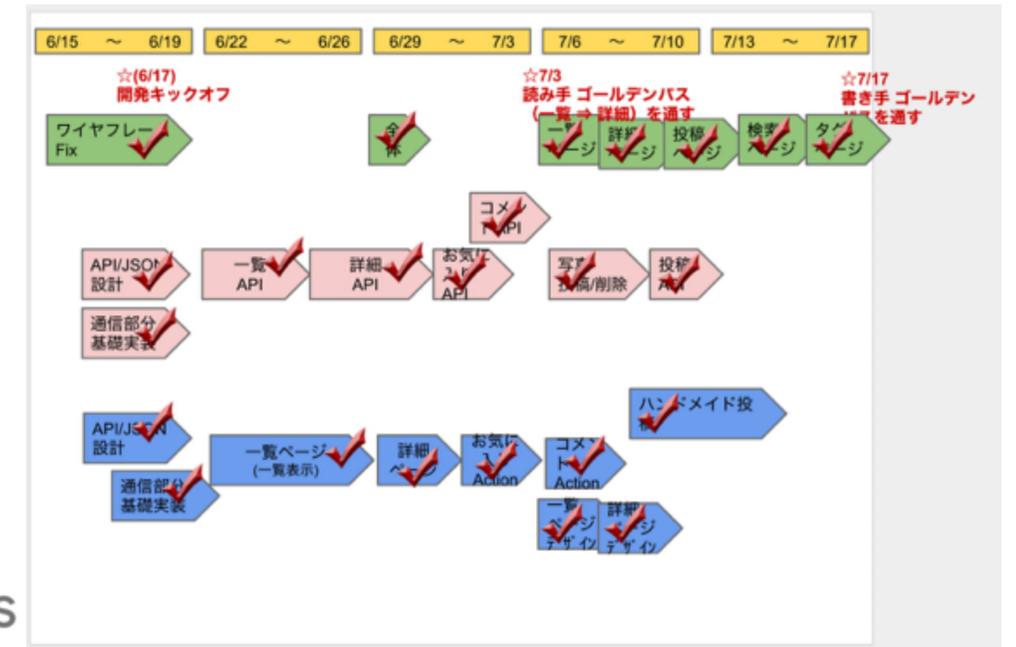
- アジャイル + リモートな開発スタイル。開発者は基本リモート
(基本は同席しない)
- 1スプリント = 1週間 サイクル でイテレーティブにプロダクト
を作っていく
- ユーザーストーリーとして要件をとりまとめ、それを開発者が
実装していく

ギルドワークスの開発スタイル

Priority	Story	Status	Action
★ 1	フェーズ2b CS評価の点数、職人詳細画面で表示する値は、第2位四捨五入で、第1位までとする (OGRO)	Accept	Reject
★ 4	フェーズ2b 職人として物件を検索したい (初期検索) (OGRO)	Accept	Reject
★ 4	フェーズ2b 職人として物件を検索したい(検索フォームで検索) (OGRO)	Accept	Reject
★ 2	フェーズ2b 職人側の物件検索のデザインを確認して頂きたい (TAKUO)	Accept	Reject
★ 4	フェーズ2b 職人として請求書を発行したい(法人代表者以外) (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 4	フェーズ2b 職人として請求書を発行したい(法人代表者) (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 6	フェーズ2b 担当者として請求書を発行したい(法人種別: 法人) (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 4	フェーズ2b 担当者として請求書を発行したい(法人種別: 個人) (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 2	フェーズ2b 請求書に出す職人の住所は選択できるようにしたい (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 1	フェーズ2b 請求書発行は、現調報告書受付日、工事完了報告書受付日が入っていないものは対象としない。 (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 10	フェーズ2b 請求書出力機能 (ROR)	Accept	Reject
★	フェーズ2b 請求書出力のフォーマットミス (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 2	フェーズ2b 3月6日フィードバック職人として仕事をみるさいに、施工から現調のリンクがほしい (OGRO, MH)	Accept	Reject
★ 4	フェーズ2b 担当者として、職人のCS評価をしたい(物件別のCSアンケート登録) (OGRO)	Accept	Reject
★ 6	フェーズ2b 担当者として、職人のCS評価をしたい(職人別のCS及び回数表示) (OGRO)	Accept	Reject
★ 0	フェーズ2b 担当者として、職人のCS評価をしたい (OGRO)	Accept	Reject
★ 2	フェーズ2b 請求書発行: 検索結果全員をダウンロードするボタンを別途設ける (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 4	フェーズ2b 担当者として、支払対象をみたい (CSV出力) (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 3	フェーズ2b 担当者として、支払対象をみたい (検索・ページネーション) (ERIS-DP)	Accept	Reject
★	フェーズ2b ステージング(2-8)で、メールのURLがおかしい (MH)	Accept	Reject
★	フェーズ2b 職人側の現調/施工詳細ページの日付曜日が英語表記になっている (OGRO)	Accept	Reject
★ 1	フェーズ2b 職人側物件検索画面、すべての一覧は、応募期間外は表示に含めないほうが良さそう (OGRO)	Accept	Reject
+	+++++ フェーズ2b群		Finish
+	リリースしたい 現調/施工の応募後に希望日時を追加された場合にxxが選べる状態になっている (OGRO)	Accept	Reject
+	リリースしたい 支払予定金額がない (ERIS-DP)	Accept	Reject
★ 6	フェーズ2b 担当者として、支払対象をみたい (集計・表示) (ERIS-DP)	Accept	Reject



ユーザーストーリーの管理



開発用ドキュメント・記録



ソースコード管理・レビュー



継続的インテグレーション

ギルドワークスのミッション

正しいものを正しくつくる

「正しくつくる」 難しさ

どこまでストーリーに書き込む？

- あるストーリーの機能追加をレビューしたが、こちらの想定とは違う挙動をする箇所があった
- 開発者が「あるべき」として判断して追加実装した箇所
- レビュー指摘で直ぐに修正依頼したが、一週間スプリントでは1日の手戻りも結構インパクトは大きい

- 詳細までしっかりと書き込んで「この通り作って」とするべきなのか??

「正しさ」と「スピード」どちらを優先する？

- 開発佳境な時期、あるプルリクエストで気になるデータマイグレーションが。
- ただしその変更をマージしないと後続の機能の開発が止まってしまう。
- 一旦変更点としては見送って、改善ストーリーとして積むべき？
気になるところは、ここでも止める判断をすべき？

開発を支える2つの芯

アジャイル開発に必要な2つの芯

- プロダクトがユーザーに「どう使われるか」について、チーム全員で意識を合わせること
= プロダクトの分析
- プロダクトがユーザーに「どう使われるか」が、コード上の機能の実現方法と乖離していないこと
= プロダクトの設計

なぜ、プロダクトの分析が必要か？

- ユーザーストーリーには「～したい」という言葉しかない。
- 実際にプロダクトの細かい動きがどうあるべきかを考えるには、「どう使われるのか」まで開発チームとして合わせておく必要がある。
- 「どう分析したか？」の意識を合わせておけば、詳細の決定を開発者に渡すことができる

「どう使われるか」が合意できていなかったら...①

- ユーザーストーリーには大まかな指針でしかない。実際には開発時に多くの事を決定していかなければいけない
- 例：
ユーザーとして、自分の情報の新規登録を行いたい。
なぜなら、このサービスで同じ情報を何度も入力したくないからだ

「どう使われるか」が合意できていなかったら...①

- このストーリーだけ開発者は当然ながら実装できない
 - 「必須項目を明示して下さい」
 - 「バリデーション方法を...」
 - 「項目の並び順を...」
- ⇒ すべてをガチガチに明記するのも一つの方法だが、
本当にどうあるべきかを考えられるのは開発者
- ⇒ 開発者がそれを判断できるだけの情報 = 「どう使われるか」

「どう使われるか」が合意できていなかったら...②

- 受発注システムの発注書出力機能を開発
- ユーザーストーリー：
管理者として、受注者に発注書を発行したい
- 開発チームは、管理側で発注支持を出した時に、受注側が発注書をダウンロードできるような仕組みを作成し、実装した

「どう使われるか」が合意できていなかったら...②

- しかし実際は、受発注システムで出力したファイルを、必要に応じて加工し、発注者に郵送するのが、現時点のユースケース。
(発注者が直接ダウンロードするのはいない)
- 開発者が必要だと考えて実装した機能は、ユーザーの使い方から考えると、想定できないものだった (結果消すことになった)
- ⇒ プロダクトの分析をし、使われ方をチーム内でもっと話せていれば、このような勘違いは起こらなかった

なぜプロダクトの設計が必要か

- ユーザーのフィードバックの数は、「どう使われるか」の基本線に乗っているものが多い
- 今の「どう使われるか」にと、プロダクトの作り方を合わせておけば、フィードバックにうまく適用できる
- 逆に、小手先の対応でのごまかしが多くなってくると非常に危険な兆候
- 簡単な変更がうまく実装できないような事態になる

「どう使われるか」通りに作れていなかったら...

- やりたかったこと：CSV出力のソート順変更（降順 ⇒ 昇順）
- 機能的にはソートはあったのに、モデル・コード上ではソート順を表すものは無かった！
- 対応として、一覧IDのセレクトをを逆順で返す対応をした
 - ⇒ テストで山ほど影響範囲が見つかり、思いの外苦戦
 - ⇒ モデルとしてソート順を示すオブジェクトを結局追加

芯を形作る取り組み

アジャイル開発に必要な2つの芯

- プロダクトがユーザーに「どう使われるか」について、チーム全員で意識を合わせること
= プロダクトの分析
- プロダクトがユーザーに「どう使われるか」が、コード上の機能の実現方法と乖離していないこと
= プロダクトの設計

分析の「芯」を作るための取り組み（Try中）

- 詳細を細かく指示するのではなく、前提条件を与えた上であるべき姿を考えてもらう
- ⇒ 「ここは必須として下さい」という詳細の指示ではなく、「今のデータの持ち方から行って、これは無くても大丈夫？」
「業務的にこれが無いと破綻しないかな？」という問いかけへ

分析の「芯」を作るための取り組み（Try中）

- ストーリーの背景に潜む業務はどんなものか、という観点で開発メンバーとディスカッションを行う
- ⇒ 「こういうことを実現してください」だけではなく、
「全体の業務としてはこうなっています」「こういうことをしたいので必要です」という流れを、チームに説明する。

分析の「芯」を作るための取り組み（やってみたい）

- ストーリーがある程度決まった時点で、システムテストをみんな
なで書いてみる
- ⇒ やりたいこと別にシナリオをつくり、そのシナリオに沿って
まずはゴールデンパスを埋めていく、ようなイメージ
- ⇒ 言葉ベースのディスカッションを、せっかくならテストケー
スという再利用可能な形で残しておきたい
- ⇒ 自動テストとして整備されているということなし

アジャイル開発に必要な2つの芯

- プロダクトがユーザーに「どう使われるか」について、チーム全員で意識を合わせること
= プロダクトの分析
- プロダクトがユーザーに「どう使われるか」が、コード上の機能の実現方法と乖離していないこと
= プロダクトの設計

設計の「芯」を作るための取り組み（Try中）

- まずは「名前」に着目する
- クラス名・パッケージ名レベルで、ネーミングをレビューする。
実際の業務や動きがイメージできるような名前になっているかどうかを考える

「名前」のリファクタリング



posaunehm on 12 Jan

[IMO]24時間なので `EXPIRE_TIME_IN_HOUR` なり、単位を明記したほうが後で読みやすそう。



posaunehm on 19 Jan

ここで追加した項目ではないと思うのだけれど、MasterIdって何でしたっけ??
ちょっと名前が汎用的過ぎるような。

- 一番違和感を表明しやすいのが「名前」
- 違和感をみんなでも表明して、意識を揃えていくことも必要

設計の「芯」を作るための取り組み（Try中）

- モデリングの「向き直り」を定期的に行う
- 「ふりかえり」ではなく、今で来ているモデルを受け止めた上で、本来の業務との差分を考えて、どう変えるべきかを考える
- モデルは、DBのデータモデルから、コード上のオブジェクトまで、色々なレイヤーで見直す
- 2～3ヶ月に一度くらいのペース

なぜ**芯**を通す開発をするのか

アジャイル開発に必要な2つの芯

- プロダクトがユーザーに「**どう使われるか**」について、**チーム全員で意識を合わせる**こと
= プロダクトの分析
- プロダクトがユーザーに「**どう使われるか**」が、**コード上の機能の実現方法と乖離していない**こと
= プロダクトの設計

芯を通す開発で得られるもの

- 開発者が、「どう使われるか」について深く理解し、その理解と実際に動くコードを連携させている。

⇒ 開発者の越境

- 変更コストの低減
- コミュニケーションの効率化
- etc...

芯を通す開発で得られるもの

- プロの開発者としての自信とプライド
- このプロダクトがどう使われるか分かり、
- それに応じて詳細を自らの意思で決めていき、
- その理解をコードに落とし込む。
- ⇒ そのプロダクトを自分のものにする

ギルドワークスのミッション

正しいものを正しくつくる

「正しいものを正しくつくる」

- 自分自身のプロダクトと思わないと、「正しい」と確信を持ち、それを実現するために「正しく」つくることなんかできない
- 皆さんも、そして私も、もっとプロダクトに向き合っていきませんか？
- 実際に動いているコードは、プロダクトオーナーでもスクラムマスターでもなく、開発者の皆さんが書いたものです。